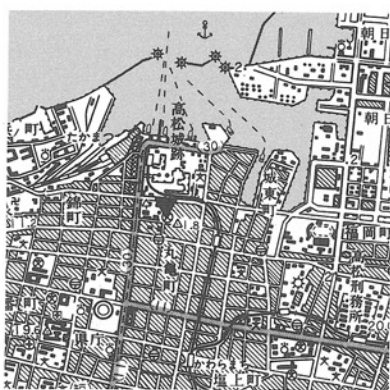


香川・高松城跡 (3) (松平大膳家中屋敷跡)

たかまつじょう

- 1 所在地 香川県高松市丸の内
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14)二月～三月
- 3 発掘機関 高松市教育委員会
- 4 調査担当者 大嶋和則
- 5 遺跡の種類 城郭跡(武家屋敷)
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(高松)

調査地は高松城跡の中堀と外堀の間に位置し、絵図などから藩主連枝松平大膳家中屋敷と推定されていた。発掘調査において検出されたSK一二三から、松平大膳家家紋(丸に中陰四つ葵紋)を上絵付けした理兵衛焼(高松藩御庭焼)及び瓦が出土したことから、推定が正しいことが確認された。調査地は屋敷の裏庭部分にあたりと考えられ、特に一八世紀後半以降のこ

み捨て穴と考えられる土坑が多数検出された。このうち、木簡は二基の土坑から出土した。

土坑SK一二三からは、家紋入り理兵衛焼や家紋入り瓦とともに、一八世紀第三四半期の陶磁器類が多量に出土した。県調査丸の内地区のSK〇九と同一遺構である(本号掲載)。また、漆器椀や曲物、箸などの木製品とともに木簡八点が出土した。

土坑SK一二一もごみ捨て穴と考えられるもので、ほぼ完形の屋島焼の土瓶が六点出土した。出土陶磁器から一九世紀の遺構と考えられる。木簡は遺構の下層の木器類とともに一点だけ出土した。

8 木簡の釈文・内容

土坑SK一二三

- (1) ・「。高松家中
[小嶋カ]
(88)×27×5 019
- (2) ・[村カ]
(64)×26×5 081
- (3) ・「とえりさ」
189×29×3 011

- (4) ・「小」^{〔目カ〕} □ 188×34×3 011
- ・「^{〔小カ〕}」 □ (86)×(21)×2 081
- (5) □ (98)×20×3 019
- (6) □中村御宿 □ (121)×(21)×3 081
- (7) □ □ □ (98)×39×4 081
- (8) □ 93×13×2 051
- 土坑SK111
- (9) 「井」

(1)の上部は方形を呈し、穿孔が見られ、下部は欠損している。裏面は欠損して定かではないが、「小嶋」の可能性が高い。『高松藩士由緒録』に代々松平大膳家の家来であったと記載のある、小嶋市兵衛の家系に関するものと考えられる。

(2)は上下が欠損する。(3)は側面の一部を欠くが、ほぼ完存するものである。表面の文字は意味不明で、裏面の墨痕は梵字の可能性がある。(4)は上下とも残存しているが、側面の片側下半が欠損している。(5)は上下、側面とも欠損している。文字は(4)に酷似する。

(6)は下は欠損するが、わずかに上端は原形をとどめている。高松

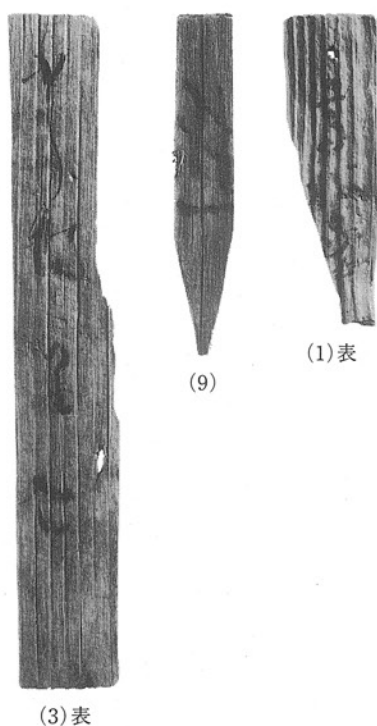
城下の南に「中村」の地名がある。(7)は上下、側面とも欠損。(8)の上部は方形で、下部は欠損している。墨痕の最上部が看取できるようにすぎない。

(9)は完存するもので、長方形の材の下部を尖らせたものである。なお、釈読にあたっては香川県歴史博物館御厨義道氏のご教示を得た。

9 関係文献

高松市教育委員会・香川県弁護士会『高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）』（二〇〇二年）

（大嶋和則）

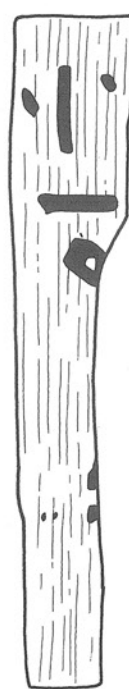




(5)



(3)



(4)



(8)



(1)



(6)



(9)



(7)



(2)